

知的障害特別支援学校高等部における卒業後を見据えた学びについて 卒業生への生活状況調査を通して

キーワード：対人コミュニケーション、知的障害特別支援学校、進路選択、ライフステージ

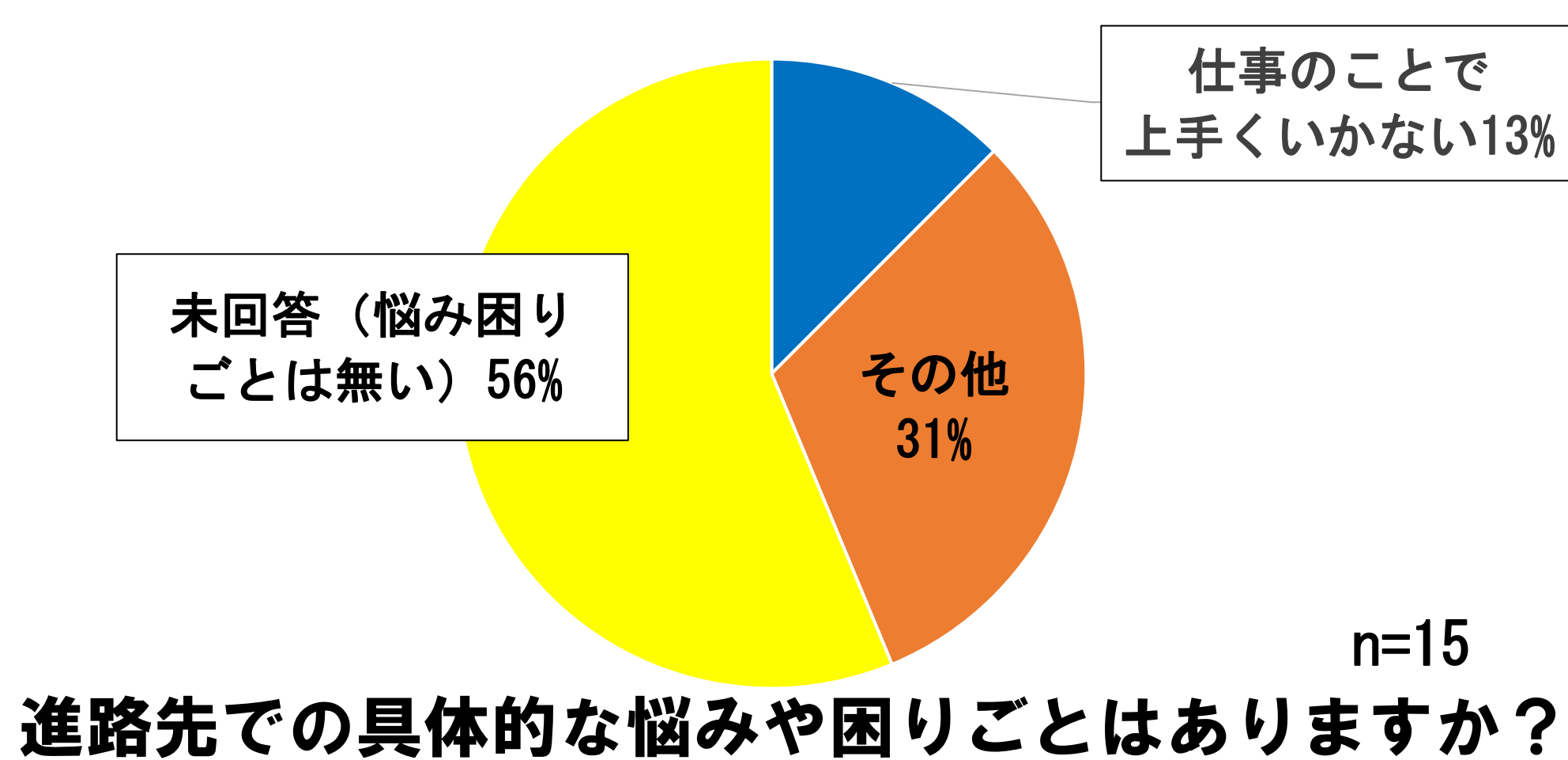
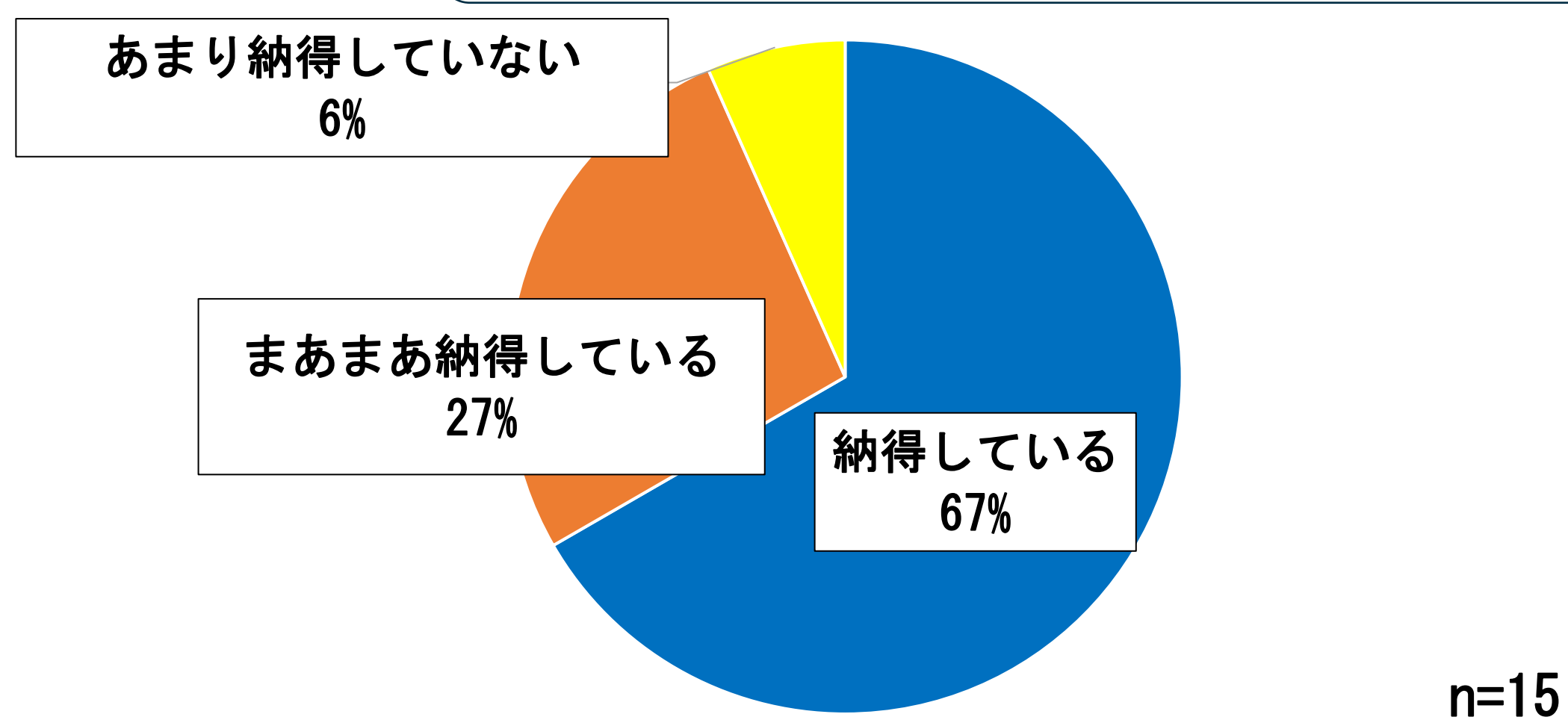
研究目的

- ・「本校卒業生へのヒアリングをアンケート形式で継続して実施することで、卒業生らが実感している困難さや、悩み等についての実態を明らかにしていく。また、今年度は、これに加えて実際に卒業生複数名とその保護者に対して直接インタビューを実施することで、知的障害特別支援学校高等部における卒業後を見据えた学びや、卒業生への適切なアフターケアを含めて検討することを目的とする。」
- ・アンケート結果を活用することで本校の進路指導・支援の強みと、弱みについても検討する。
- ・卒業生が年齢を重ねることで変化する各ライフステージに応じた支援を検討する。
- ・本校独自の職場定着率と離職率の把握とその主な要因の分析を行う。

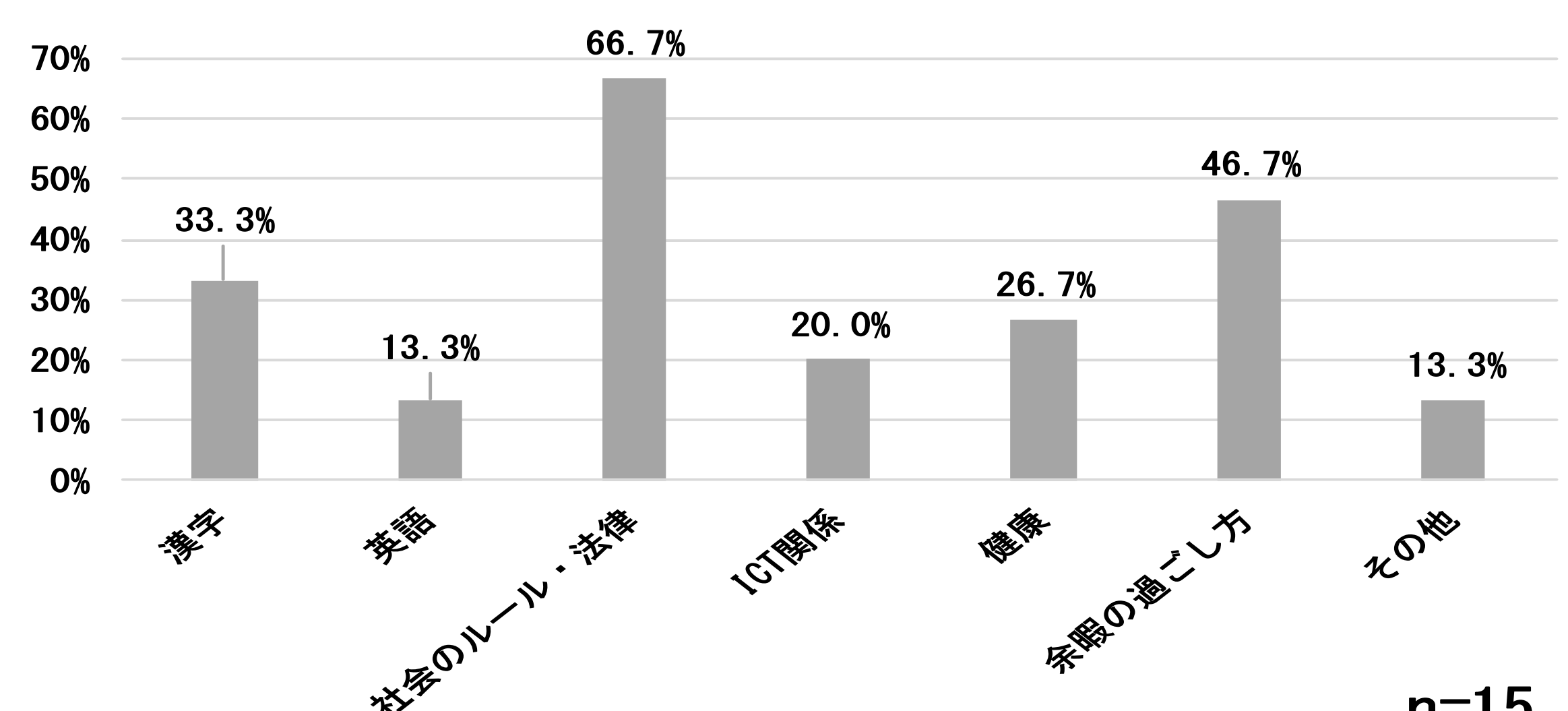
研究方法

1. 対象
2017(平成29)年度から2021(令和3)年度までの本校卒業生16名を対象に実施。
2. 調査項目
菅野(2012)の提唱する「生涯発達・地域生活支援の4領域」をもとに「職業・仕事」、「生活・暮らし」、「余暇」、「健康」の4領域を軸に33の質問項目を作成した。これらを「令和4年度 卒業生生活状況調査アンケート」を実施した。
3. 調査方法
対象者に対して、郵送にてアンケートを送付し、それに回答してもらう形式で実施した。これらに加えて、複数名にインタビューを実施した。具体的な方法としては、本校卒業生の中から抽出した5名に対して、「職業・仕事」、「生活・暮らし」、「余暇」、「健康」の4領域に対して質問項目を設定し、一つの質問項目に対して概ね4~8択の選択肢を設け、その中から選んで回答するという方式を採用した。また、設問によっては記述欄を設けることで、補足的な説明を可能とした。なお、自力での回答が難しい卒業生に関しては、保護者や協力者に回答の協力を依頼した。
4. 調査時期
2022(令和4)年10月から12月で実施。
5. 手続き
アンケート結果を基に、各質問項目を単純集計し、グラフ化した。
6. 倫理的配慮
本研究は2021年12月17日付で大阪教育大学倫理委員会より承認(受付番号:21098)を受けて実施。対象卒業生及び、未成年の場合その保護者に研究について説明を行い、研究参加への同意を得た。

卒業生たちが現在感じている心理的側面 (R4年度卒業生生活状況調査アンケートより抜粋)



今の進路先で悩みや困っていることはありますか?



学生時代にもっと勉強しておけば良かったと思うこと

考察

- 【アンケート結果より】
- ・現時点での本校卒業生の状況としては、様々な悩みや困りごとを抱えながらも懸命に仕事に従事し、日々を生き抜いている様子が伺えた。
 - ・今のところ離職に結び付くケースが少ない要因としては多くの場合、家庭環境の安定性が大きく寄与していると言える。反面、卒業生自身の社会的自立という観点では、進路先によって賃金のベースは大きく異なることを差し引いても、自立した生活を営む上で必要な賃金を得ることが困難な状況が明らかとなった。こうした経済的背景から卒業生が将来的に親元から離れ、グループホームなどを経て一人暮らしへ移行することが、高いハードルであるという状況が大きな課題であることが伺える。
 - ・生活基盤がごく限られたコミュニティであることに起因する人間関係の広がりやの小ささは、将来的な孤独や孤立を際立たせる要因として憂慮するべきものであると考える。
- 【今後の課題として】
- ・「より多数の卒業生に対して継続してアンケートを実施すること」
 - ・「障害種ごとの傾向や、有効な支援の手立てについて」を明らかにしていくこと。
 - ・高等部の教育課程を再考するうえで具体的に何がより必要となるのかを実際の授業に直接反映することができる方策についての検討を進める。

引用・参考文献(主なものを抜粋)

- 中央教育審議会(2011) 今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)
- 文部科学省(2015) 特別支援教育の現状と課題 教育課程企画特別部会 資料3-3
- 片山陽子・今枝史雄(2020) 知的障害児の成人期を見据えた教育課程・教育内容の検討 障害児教育研究紀要 = Special needs education research (42), 69-80, 2019 大阪教育大学教育学部総合教育系特別支援教育部門